

新「京地どり」の特徴付けを目的とした発育調査を実施

当センターでは、これまで「京地どり生産・流通推進協議会」と連携して、新「京地どり」の鶏種の組み合わせ（♂大型軍鶏×♀横斑プリマスロック）、新「京地どり」に適した飼料エネルギー量、タンパク質量及び飼育期間を決定してきました。

今年度は、生産者及び流通業者からの飼料によって「京都産」地鶏としての特徴付けをしたいとの要望を受けて、京都産の粳米と竹粉を添加した飼料による飼育試験を実施しました。

粳米と竹粉の添加量が異なる3種類の飼料で、7月末から10月にかけて発育調査を行ったところ、飼料による違いは見られないことが分かりました。

今後は、種類の異なる各飼料区での肉質の違いを検討するため、アミノ酸、イノシン酸、脂肪酸及び味センサーによる調査を行い、新「京地どり」に適した特徴付け飼料の配合割合を決定します。

畜産センター

表1. 各区における添加飼料の配合割合と90日齢体重

特徴付け飼料	京地どり(雄)			京地どり(雌)	
	①	②	③	①	③
粳米(%)	10	10	20	10	20
竹粉(%)	0	2	2	0	2
体重(g)	3695±54.1	3660±50.8	3643±46.1	2510±40.3	2630±39.9



図1. 90日齢雄



図2. 90日齢雌

【管内情報】

小中学生たちの体験学習を行いました

9月30日、地元の小学校1年生9名と2年生5名が当場を訪問し、家畜の生態や牧場で働く職員の仕事について学びました。生徒たちは山羊の聴診や牛の体重に関する事など職員の話に目を輝かせていました。

また10月1日と2日には丹後中学校2年生3名が職場体験学習を行いました。学生たちは牛の口元に給餌を行うなど、初めての作業に戸惑いながらも、終了後は「生き物を育てることの大変さを知り、とても有意義な体験だった」との感想を述べていました。

当場は今後も畜産への関心を高め、興味を持ってもらうため、児童や生徒を対象とした体験学習の受け入れを積極的に行っていきます。



山羊の心音を聴診



子供たちの質問に身振り手振りで回答



子牛の人工哺乳



一頭ずつ給餌

畜産センター碓高原牧場